

2022 年マレーシア総選挙——イスラム主義、連邦・州関係、マレー王家¹

山本博之(京都大学)

0. はじめに——2022 年マレーシア総選挙がもたらした驚きと戸惑い

2022 年 11 月 19 日にマレーシアの国会(連邦議会)²の総選挙が行われた³。前回の 2018 年総選挙では与党連合・国民戦線(BN)が野党連合・希望連盟(PH)に破れ、希望連盟の一員であるマレーシア統一プリブミ党(PPBM)のマハティール・モハマドを首相とする政権が誕生した⁴。しかし国会議員の政党移籍の噂が飛び交って政権が不安定化し、新型コロナウイルス感染症流行のため国会を開催して各議員の所属政党を確認することができない状況で、2020 年 3 月、PPBM が希望連盟を脱退して国民戦線と組み、PPBM のムヒディン・ヤシンが首相に就任した。その後 2021 年 8 月にムヒディンから国民戦線の中核政党である統一マレー人国民組織(UMNO)のイスマイル・サブリ・ヤアコブに首相が交代した。こうして 2018 年総選挙から 4 年足らずの間に、希望連盟は選挙を経ずに政権の座を追われ、かわりに UMNO が与党の座に返り咲いた。

有権者の年齢が 21 歳から 18 歳に引き下げられ(2021 年 12 月 15 日実施)、国会議員の政党移籍を禁止する法律が施行された⁵(2022 年 10 月 5 日施行)後に行われた 2022 年総選挙では、与党陣営が UMNO を中心とする国民戦線と PPBM を中心とする国民同盟(PN)に分かれ、そこに政権奪回をはかる希望連盟が加わって三つ巴の戦いになった。ただしこの 3 つの政党連合はいずれも単独で過半数を取ることはなく、他の政党や政党連合と組むことになると見られていた。連携相手の候補となるサラワクとサバの地域政党は、長く国民戦線と連

¹ 本稿は、2022 年 11 月 25 日に行われた日本マレーシア学会の「2022 年マレーシア総選挙を考える」研究会での報告と討論をもとに、12 月 3 日の全閣僚就任までの展開を踏まえて加筆した上で再構成したものである。

² 本稿で国会と連邦議会は同じものを指し、いずれも下院を指す。

³ プルリス、パハン、ペラの 3 つの州で総選挙と同日に州議会選挙が行われた。

⁴ 本稿では原則として政党連合は「国民戦線」「希望連盟」のように日本語名称で書き、政党名は PPBM や UMNO のように略号で書く。政党・政党連合の正式名称等は表 1 を参照。

⁵ 議員の鞍替えを禁止する法律は過去に存在した。1985 年にサバ団結党(PBS)がサバ州政権を掌握すると、国民戦線による党員引き抜きに対抗するため、PBS 州政権は 1986 年に州憲法を改正して州議会議員の鞍替え禁止法を施行した。しかし 1992 年に連邦裁判所で同法は結社の自由を認めた連邦憲法に抵触するために無効であるという判決が出され、同法は廃止された。1994 年の州議会選挙で PBS は国民戦線に辛勝したが、国民戦線による議員の大量引き抜きにより PBS 州政権は瓦解し、サバ州で国民戦線州政権が誕生した。

携してきたが、2018 年以降は国民戦線以外の政党連合とも連携するようになっており、この選挙では連携相手をどのように選ぶかが注目された。

(1)5 つの政党連合の当選議席数

2022 年総選挙の結果、単独で過半数を得た政党連合はなかった。希望連盟、国民戦線、国民同盟、サラワク政党連合 (GPS。以下、「サラワク連合」と略)、サバ人民連合 (GRS。以下、「サバ連合」と略) の 5 つの政党連合を中心に、表 1 をもとに 2022 年総選挙で各政党が得た議席数を見ていこう。

表1 2022年総選挙の政党別の獲得議席数

[山本博之 2023]

	略称	日本語名称	地域基盤	2018当選時	2022解散時	2022結果	2018当選時 からの増減	2022解散時 からの増減	名称 [英語名称]
希望連盟 (PH)	DAP	民主行動党	半島部	42	42	40	-2	-2	Pakatan Harapan [Alliance of Hope]
	PKR	人民公正党	半島部	47	36	31	-16	-5	Democratic Action Party
	Amanah	国民信託党	半島部	11	11	8	-3	-3	People's Justice Party [People's Justice Party]
	UPKO	統一進歩キナバル組織	サバ	1	1	2	+1	+1	Parti Amanah Negara [National Trust Party]
	MUDA [1]	マレーシア統一民主連盟	半島部	-	1	1	+1	0	United Progressive Kinabalu Organisation
	計			101	91	82	-19	-9	Malaysian United Democratic Alliance
国民戦線 (BN) [2]	UMNO	統一マレーシア国民組織	半島部	54	37	26	-28	-11	Barisan Nasional [National Front]
	MCA	マレーシア華人協会	半島部	1	2	2	+1	0	United Malays National Organisation
	MIC	マレーシア・インド人会議	半島部	2	1	1	-1	0	Malaysian Chinese Association
	PBRS	サバ人民統一党	サバ	1	1	1	0	0	Malaysian Indian Congress
	計			58	41	30	-28	-11	Parti Bersatu Rakyat Sabah [United Sabah People's Party]
国民同盟 (PN) [3]	PAS	汎マレーシア・イスラム党	半島部	18	17	43	+25	+26	Perikatan Nasional [National Alliance]
	PPBM	マレーシア統一プリブミ党	半島部	13	22	31	+18	+9	Parti Islam Se-Malaysia [Pan-Malaysian Islamic Party]
	計			31	39	74	+43	+35	Parti Pribumi Bersatu Malaysia [Malaysian United Indigenous Party]
サラワク政党連合 (GPS)	PBB	サラワク統一ブミプトラ党	サラワク	13	14	14	+1	0	Gabungan Parti Sarawak [Sarawak Parties Alliance]
	SUPP	サラワク統一人民党	サラワク	1	1	2	+1	+1	Parti Pesaka Bumiputera Bersatu [United Bumiputera Heritage Party]
	PDP	進歩民主党	サラワク	2	2	2	0	0	Sarawak United Peoples' Party
	PRS	サラワク人民党	サラワク	3	2	5	+2	+3	Progressive Democratic Party
	計			19	19	23	+4	+4	Parti Rakyat Sarawak [Sarawak Peoples' Party]
サバ人民連合 (GRS) [4]	PPBM	マレーシア統一プリブミ党	サバ	-	6	4	+4	-2	Gabungan Rakyat Sabah [Sabah People's Alliance]
	PBS	サバ団結党	サバ	1	1	1	0	0	Parti Pribumi Bersatu Malaysia [Malaysian United Indigenous Party]
	STAR	サバ人民祖国連帯党	サバ	1	1	1	0	0	Parti Bersatu Sabah [United Sabah Party]
	計			2	8	6	+4	-2	Parti Solidariti Tanah Airku [Homeland Solidarity Party]
その他の政党・無所属	WARISAN	伝統党	サバ	8	7	3	-5	-4	
	PBM	マレーシア民族党	サラワク	-	6	1	+1	-5	Parti Warisan [Heritage Party]
	KDM	社会民主和諧党	サバ	-	0	1	+1	+1	Parti Bangsa Malaysia [Malaysian Nation Party]
	Pejuang [5]	祖国闘士党	半島部	-	4	0	0	-4	Parti Kesejahteraan Demokratik Masyarakat [Social Democratic Harmony Party]
	PSB [6]	サラワク団結党	サラワク	-	1	0	0	-1	Parti Pejuang Tanah Air [Homeland Fighter's Party]
	無所属			3	3	2	-1	-1	Parti Sarawak Bersatu [United Sarawak Party]
	計			11	21	7	-4	-14	
	合計 [7]			222	219	222			

出典：報道情報等をもとに筆者作成。

[1] MUDAは希望連盟に含めた。

[2] 国民戦線にはPCM、KIMMA、MMSP、AMIPF（いずれも半島部拠点）が含まれるが、2018年当選時、2022年解散時、2022年当選時のすべてで議席なしのため表に記載していない。

[3] 国民同盟にはGerakan（半島部拠点）が含まれるが、2018年当選時、2022年解散時、2022年当選時のすべてで議席なしのため表に記載していない。

[4] サバ人民連合にはSAPP（サバ拠点）が含まれるが、2018年当選時、2022年解散時、2022年当選時のすべてで議席なしのため表に記載していない。

[5] PejuangはPutra、Berjasa、IMAN（いずれも半島部拠点）とともに祖国運動 (GTA) を結成した。

[6] PSBはPBDSとPBK（いずれもサラワク拠点）とともにサラワク統一人民連合 (SUPA) を結成した。

[7] 2022年解散時には空席（半島部2議席、サバ1議席）があったため議席数は219。

希望連盟では、2018 年総選挙で 47 議席を得ていた人民公正党 (PKR) が 2018 年当選時から 16 議席減らして 31 議席になった (2022 年解散時からは 5 議席減)。これにより、2018 年当選時および 2022 年解散時から 2 議席減らしたとはいえ 40 議席を得た民主行動党 (DAP) が希望連盟内の最大政党になった。

国民戦線では、2018 年総選挙で 54 議席を得ていた UMNO が 28 議席減らして 26 議席になり (2022 年解散時からは 11 議席減)、UMNO の凋落が決定的となった。華人政党・マレ

ーシア華人協会(MCA)とインド人政党・マレーシア・インド人会議(MIC)も、それぞれ 2 議席と 1 議席を守っただけで、もはや名目上の政党でしかないことを印象付けた⁶。

国民同盟では、2018 年総選挙で 13 議席を得て小規模政党ながら 2 人の首相を出して政権の中枢にいた PPBM が、他党からの移籍により 2022 年解散時には議席を 22 に増やしており、2022 総選挙ではそれを 31 に増やした。2018 年総選挙で 18 議席だった汎マレーシア・イスラム党(PAS)は 2022 年総選挙では 25 議席増の 43 議席となり、すべての政党の中で最大政党となったことが驚きをもって受け止められた。

サラワク連合はサラワクの 4 つの地域政党から成り、サラワクにある 31 の国会議席のうち 23 議席を占めた。サバ連合は、サバ⁷の 2 つの地域政党と PPBM サバ支部(サバ PPBM)から成り、サバにある 26 の国会議席のうち 6 議席を得た。

その他の政党を見ると、2018 年総選挙で 8 議席を得て希望連盟政権に参加した伝統党(Warisan)⁸は、2022 年総選挙ではいずれの政党連合とも組まず、議席獲得は 3 にとどまった。このほか、サラワク拠点のマレーシア民族党(PBM)とサバ拠点の社会民主和諧党(KDM)が 1 議席ずつ得た。2018 年総選挙で PPBM を率いて希望連盟を勝利に導いたマハティールが首相辞任後に結成した祖国闘士党(Pejuang)は、他の諸政党とともに祖国運動を結成して 2022 年総選挙に臨んだが、議席獲得はなかった。

(2)PAS の躍進と DAP の善戦

2022 年総選挙の結果で注目されるのは国民同盟の PAS の躍進、そして希望連盟の DAP の善戦である。PAS はイスラム国家樹立を掲げる政党で、マレーシアの北部地域を中心に根強い支持者がいる一方で、イスラム法の施行に関する主張の過激さゆえに、非ムスリムである華人やインド人だけでなくムスリムであるマレー人の有権者からも警戒されてきた。DAP は、1963 年から 1965 年までマレーシアの一部だったシンガポールの与党・人民行動党(PAP)の流れを汲み、華人とインド人を主体として社会民主主義を掲げる政党である。マレー人優遇政

⁶ 国民戦線が拠点とする半島部では、華人人口は国民の 21.2%、インド人は 7.3%である(2010 年人口センサス)。国会の半島部の定数 165 のうち MCA は 2 議席(1.2%)、MIC は 1 議席(0.6%)を占めるのみであり、それぞれの民族を代表する政党であると言い難い状況になっている。

⁷ 本稿ではサバはラブアン連邦直轄区を含む。

⁸ もとはサバ州の地域政党としてサバ伝統党の名称で結成されたが、2022 年総選挙では全国政党になるためサバ州以外でもサバ州と同数の候補を立て、党名を伝統党に改称した。

策に批判的な態度をとってきたことから、マレー人の権利を制限しようとする政党としてマレー人有権者から警戒されてきた。

2018 年まで政権にあった国民戦線は、各民族が自民族の要求ばかり主張すると互いに対立するため、マレー人政党 UMNO、華人政党 MCA、インド人政党 MIC のような民族融和的な政党どうしでなければ民族間の連携は成り立たず、それを可能にしているのは国民戦線だけであると訴えてきた。実際に、長く二大野党の座にあった PAS と DAP は路線の違いのために互いにしばしば対立し、1990 年以降に第三の政党の仲介によって共闘が試みられながらも長続きせず瓦解することが繰り返されてきた。2022 年総選挙で PAS と DAP が国会で大きな勢力を得たこと、しかも、それぞれ異なる政党連合に属していることは、PAS や DAP の対極の穏健政党を自任してきた国民戦線の凋落とあわせて、マレーシアはどの方向に向かうのかという不安を国民に与えることにもなった。

(3)2022 年総選挙のわかりにくさ

2022 年総選挙で過半数を得た政党連合がなかったことから、国王の調停のもとで複数の政党連合が連携し、希望連盟のアヌアル・イブラヒム⁹を首相とする新政権が発足した。アヌアルは他の政党連合と連携せざるを得ず、金権政治を強く批判してきた相手である UMNO と組み、汚職裁判を抱えているアフマド・ザヒド・ハミディ UMNO 総裁を副首相に起用することになった。また、国民戦線政権時代にナジブ・ラザク元首相が首相と財務相を兼務したことが権力集中を招いたという批判にもかかわらず、アヌアルは財務相を兼務した。首相だけ見れば希望連盟が勝利したようにも見えるが、内実はどのように解釈すればよいのか極めてわかりにくい選挙結果となった。

本稿の目的は、2022 年総選挙の結果についてわかりやすい解説を提供することではなく、わかりにくいということを共有することにある。わかりにくさの背景には、2018 年総選挙を経てマレーシアの政治は大きく変化したが、2018 年から 2022 年の間にその変化は確かなものになったのか、それとも逆コースを辿っているのか、2022 年総選挙から判断しにくいということがある。

建国以来マレーシアの政治を特徴づけてきた「民族の政治」(後述)を担ってきた国民戦線が 2018 年総選挙で敗れたことで、「民族の政治」は終わりに向かったと思われた。しかし 2018

⁹ 日本語ではアヌアル・イブラヒムと書かれることが多いが、本稿ではマレーシアでの呼び方に近いアヌアル・イブラヒムを用いている。

年から 2022 年までの 4 年間にマレーシアが経験したのは、選挙で勝利して政権に就いた希望連盟が国会で十分な支持を確保できずに国民戦線の政権参画を許し、最終的に国民戦線から首相が出るという 2018 年以前の状態への回帰である。この 4 年間の経験をどのように理解すればよいのか。2022 年総選挙では、希望連盟が首相を出すという意味で勝利したものの、国民戦線を政権に参画させざるを得なかったことから、2018 年からの 4 年間の経験が再び繰り返されるのではないかという懸念も聞かれる。

2018 年総選挙で国民戦線は破れたものの、「民族の政治」は堅牢で国民戦線が力を持ち続けるのか。それとも、2018 年以降は国民戦線が政権に加わったとしても「民族の政治」は終わって別の仕組みになっているのか。2022 年総選挙について考えることは 2018 年総選挙の意味を考えることであり、2018 年総選挙について考えることは 2022 年総選挙の意味を考えることでもある。そのため以下では、歴史的および社会文化的な背景に思いを巡らせながら、2022 年総選挙を手掛かりに、マレーシアの政治をどのように捉えればよいのかを考えてみたい。まずマレーシアの政治を捉える枠組とその近年の変化について整理した上で、それに照らして 2022 年総選挙の結果を検討する。

1. 連邦・州関係と「民族の政治」

(1) マレーシア政治を捉えるための 3 つの地域区分

マレーシアの政治を考える上では、半島部マレーシア(以下、「半島部」)、サラワク、サバに分けて考えることが欠かせない。この 3 つの地域はイギリス統治と日本軍政を経験したという共通点を持つが、制度の面でも住民の意識の上でもそれぞれ異なる国だった。半島部の 11 州は 1957 年にマラヤ連邦として独立した。ボルネオ島のサラワクとサバは 1963 年に独立し、マラヤ連邦と一緒にマレーシアを結成した¹⁰。このときマレーシア結成に加わったシンガポールが 1965 年に離独立したことにより、マレーシアは半島部の 11 州とボルネオ島のサラワク州・サバ州の 13 州から成る連邦国家になった。

制度の上では、半島部の 11 州とボルネオ島の 2 州はそれぞれ州政府を持ち、連邦政府は

¹⁰ 半島部の人々にとってマレーシア結成はマラヤ連邦が拡大したという意識が強く、「サラワクとサバがマレーシアに加わった」という言い方をする人が少なくないが、サラワクとサバの立場からは、「マラヤ連邦とサラワクとサバ(およびシンガポール)がマレーシアを結成した」という言い方になる。また、マラヤ連邦が拡大したものという認識からかマレーシアの正式名称は「マレーシア連邦」であると考えの人がいるが、連邦憲法で国名はマレー語でも英語でも Malaysia と規定されたため、正式名称は「マレーシア」である。

半島部、サラワク、サバをあわせたマレーシア全体の政府である。ただし、マラヤ連邦では州政府の権限が小さく、しかもほとんどの時期にほとんどの州で同じ与党連合が連邦政府と州政府を担ったため、州政府は連邦政府の下請け機関であるかのように見られており、マレーシア結成後も半島部の 11 州ではその状況が続いた。

これに対してサラワクとサバは 1963 年のマレーシア結成の際に州政府に大きな権限が認められた。しかも連邦政府はサラワクとサバの州行政に基本的に干渉しないという態度で臨んだため、サラワクとサバでは連邦政府の役割は極めて限定的だった。

さらに、半島部に拠点を置き連邦政府を担う UMNO、MCA、MIC はサラワクとサバに支部を作らず、サラワクとサバの地域政党がそれぞれの州政府を担い、半島部、サラワク、サバの与党連合が連立して連邦政府を構成することになった。これらの結果として、半島部の連邦政府、サラワクのサラワク州政府、サバのサバ州政府の 3 つの政府が地域的に棲み分ける状況が生じた。

この状況は後述するように 1990 年代以降に一部変化するが、マレーシアの政治は半島部、サラワク、サバの 3 つの地域に分かれており、それぞれ別に考えないとうまく捉えられない状況は今も変わっていない。ただし 2000 年代初め頃まで連邦全体の政治や経済におけるサラワクとサバの影響力は大きくなかったため、マレーシアの政治や経済を語る際にサラワクとサバはしばしば除外されてきた。

表 2 に示すように、1963 年のマレーシア結成当初、連邦議会の下院の定数は 144 だった。内訳は半島部が 104、サラワクが 24、サバが 16 で、半島部が定数の 72.2% を占めていた。定数は徐々に増えているが（現在は連邦議会全体で 222）、どの時期を見ても定数の 7 割以上を半島部が占めてきた。

これに加えて、建国時から 2018 年まで政権の座にあった与党連合（はじめ連盟党（Alliance）、後に国民戦線）は常に半島部で 7 割以上の議席を得ていたことから¹¹、半島部の与党連合の議席だけで連邦議会の過半数の議席を維持できた。このこともあって、半島部の政治指導者たちはサラワクとサバのことを何もしなくても自分たちに国会の議席を提供してくれる便利な大票田ぐらいにしか見てこなかった¹²。

¹¹ 唯一の例外は 1969 年総選挙で、半島部の定数 103 に対して与党連合は 66 議席に後退した。与野党の支持者による祝勝行進が衝突して暴動に発展して多数の死者を出した。これをきっかけに与党連合を拡大した国民戦線が結成された。

¹² ナジブ政権時代、半島部の国民戦線の政治家たちは、いつでもほしただけ預金（議席）を引き出すことができるという意味でサラワクとサバをしばしば公然と「fix-deposit」（定期預金）と

表2 各総選挙における主要政党連合の地域別獲得議席数

[山本博之 2023]

年	定数					国民戦線 [1]					希望連盟 [2]				
	半島部	サラワク	サバ	全国	(%) [3]	半島部	サラワク	サバ	全国	(%) [4]	半島部	サラワク	サバ	全国	(%) [5]
1959	104	-	-	104	100.0	74	-	-	74	71.2	-	-	-	-	-
1964	104	24	16	144	72.2	89	18	16	123	85.6	-	-	-	-	-
1969	103	24	16	143	72.0	66	9	16	91	64.1	-	-	-	-	-
1974	114	24	16	154	74.0	104	15	16	135	91.2	-	-	-	-	-
1978	114	24	16	154	74.0	94	23	13	130	82.5	-	-	-	-	-
1982	114	24	16	154	74.0	103	19	10	132	90.4	-	-	-	-	-
1986	132	24	17	173	76.3	112	21	15	148	84.8	-	-	-	-	-
1990	132	27	21	180	73.3	99	21	7	127	75.0	-	-	-	-	-
1995	144	27	21	192	75.0	123	26	13	162	85.4	-	-	-	-	-
1999	144	28	21	193	74.6	102	28	18	148	70.8	-	-	-	-	-
2004	165	28	26	219	75.3	146	27	25	198	88.5	-	-	-	-	-
2008	165	31	26	222	74.3	85	30	26	141	51.5	80	1	1	82	48.5
2013	165	31	26	222	74.3	86	25	22	133	52.1	80	6	3	89	48.5
2018	165	31	26	222	74.3	49	19	11	79	29.7	97	10	6	113	58.8

出典：報道情報等をもとに筆者作成。

[1]1969年まで連盟党(Alliance Party)

[2]2008～2013年は人民同盟(Pakatan Rakyat)

[3]半島部の議席数が全国の議席数に占める割合 (%)

[4]半島部の国民戦線の議席数の半島部の定数に占める割合 (%)

[5]半島部の希望連盟の議席数の半島部の定数に占める割合 (%)

※1969年総選挙はサラワクとサバでは1970年に延期された。

※1986年以降のサバはラプアンを含む。

2008 年総選挙以降に半島部で与野党の勢力が拮抗したことで、政権維持のためにはサラワクとサバの支持を調達することが重要になった。サラワクとサバの主要な地域政党は 2018 年まで国民戦線に加盟してきたが、2018 年総選挙の後にサラワクとサバのほとんどの地域政党が国民戦線から脱退し、連携相手を柔軟に選ぶようになった。サラワクの主要な地域政党はサラワク連合を結成し、半島部のいずれの政党連合にも加盟せずに連携相手を選ぶ立場をとった。

(2)「民族の政治」から「移籍の政治」へ

半島部で複数の政党連合の勢力が拮抗していることについて、直接の理由は希望連盟に至る野党連合が半島部で支持を拡大してきたことにあるが、政治の仕組としては「民族の政治」が終わりを迎えたことと関連している。

半島部の政治は「民族の政治」の枠組みで捉えられてきた¹³。半島部の住民は、マレー人、華人、インド人の3民族に明確に区分されることを前提に、それぞれの民族を代表する政党が

呼び、サラワクとサバが不快感を表明しても無頓着な態度を見せた。

¹³ 「民族の政治」は半島部でのみ見られ、サラワクとサバは、見かけ上それと同じような事象が見られることがあっても、「民族の政治」で捉えることはできない。近年の選挙報道ではサラワクとサバでも選挙区ごとの有権者の民族構成が報じられるようになった。その数値を半島部と同じ方法で処理して何らかの結果を導くことは可能だろうが、それによって得られた結果はサラワクやサバの事情に照らして意味を持つわけではない。

連立することで、すべての民族の代表が参加して国の進路を決めるという国家運営がはかられてきた。この「民族の政治」を担ってきたのが民族政党の連合体である国民戦線だった。「民族の政治」はあまりに頑強であるため、「民族の政治」の枠組で解決できないことがらに対応するために地域的な政党が結成されても、国民戦線に取り込まれることで民族政党という特徴づけを与えられ、自身もそのように振舞っていった¹⁴。

「民族の政治」は、建国直後の時期に多様な背景を持つ人々が深刻な対立に陥ることなく1つの国をまとめていく上で積極的な役割を担ったと評価できる。他方で、人々を民族という規範的な枠組に押し込めることで個人の自由を制限し、そのために経済開発や科学技術の振興や社会文化の発展が妨げられるという不満を招いており、「民族の政治」にかわる改革を求める声も生じていた。

この声に後押しされた希望連盟が、わずかの間とはいえ2018年に政権に就いたことは、多様な人々を民族という箱の中に押し込めることで秩序を保ってきたマレーシアで「民族の政治」というパンドラの箱を開け、入っていたものを解き放ってしまったのだろうか。

「民族の政治」と入れ替わりで見られるようになったのは「移籍の政治」である。「民族の政治」のもとでは政党が民族別に構成されるために政党間の移籍が起りにくかったが、「民族の政治」が終わったことで政党間の移籍が頻繁に生じるようになった¹⁵。

(3)連邦と州の使い分け

従来マレーシアで連邦・州関係と言えばもっぱらサラワクとサバの位置付けを指したが、2000年代以降は半島部の各州においても連邦・州関係が顕在化してきた。上述のようにマヤ連邦時代の連邦・州関係を受け継いだ半島部では、州政府はほとんど権限を持たなかった。東海岸のクランタン州とトレンガヌ州で連邦野党のPASが州政権に就いたことがあったが、連

¹⁴ Gerakan はペナン州を中心に華人を主要支持基盤とする多民族政党として結成され、半島部の他の州にも支持を拡大していった。人民進歩党(People's Progressive Party: PPP)はペラ州を中心にインド人を主要支持基盤とする多民族政党として活動していた。どちらも1973年に国民戦線に加入し、Gerakan は華人政党、PPP はインド人政党として位置づけられ、自らもしばしばそのように振舞った。

¹⁵ 2018年当選時の所属政党と2022年解散時の所属政党が異なる国会議員の数は以下の通り。UMNO から PPBM への移籍が 15 人(半島部 10 人、サバ 5 人)、PKR から PPBM への移籍が 5 人(半島部 5 人、サラワク 1 人、サバ 1 人)、PKR から UMNO・PPBM 以外への移籍が 6 人(半島部 4 人、サラワク 2 人)、PPBM から UMNO・PKR 以外への移籍が 5 人(半島部 5 人)。

邦野党が州政府になった野党州に対しては連邦政府が開発政策の対象から外すという「罰」を与えたことから、野党州になると州の経済が止まるという恐れを招いた。このため、クランタンのように経済開発から取り残されてきた州でしか野党州は生まれないと考えられてきた。

2008 年総選挙と同日に行われた州議会選挙では、経済開発が進んでいる西海岸のクダ州、ペナン州、ペラ州、スランゴール州で野党州が生まれた¹⁶。これらの州で州政府が権限を実質化していく過程で、野党州になると経済が止まるというのは無用の心配であるという考え方が受け入れられるようになった。このことを積極的に捉え、連邦議会と州議会に別の政党を選ぶという考え方も出てきているようだ。連邦議会と州議会の選挙で別の政党に投票することはサバでしばしば見られてきたことだが、2022 年総選挙では半島部でも見られるようになった。

次節以降では、2022 年総選挙のうち(1)PAS の躍進、(2)半島部の政党連合とサラワク・サバとの関係、(3)選挙後の首相指名がマレーシア政治において持つ意味を検討した上で、希望連盟が取り組んできた改革のゆくえについて考えてみたい。

2. PAS の躍進——イスラム主義政党への抵抗感の軽減か、連邦と州の使い分けか

PAS の躍進は 2022 年総選挙だけに見られる一時的なことがらなのか、それともマレーシア政治の長期的な変化の表れなのかは、今後研究がなされていくものと思われる。ここでは現時点で考えられるいくつかのことを挙げておきたい。

一時的なことがらと関連して、今回の総選挙では UMNO のザヒド総裁が候補者の公認で大きな権限を振るい、ザヒド派¹⁷に批判的な候補者を公認しなかったり¹⁸、地盤がない選挙区に移して出馬させたりした¹⁹。現職の大臣や副大臣で UMNO の公認から漏れたために PAS

¹⁶ 4 つの州で政権に就いた政党連合は人民同盟(Pakatan Rakyat, PR)。各州の州首相の所属政党は、クダ州は PAS、ペナン州は DAP、ペラ州は PAS、スランゴール州は PKR。ペラ州では 2009 年に国民戦線が州政権を取り戻した。

¹⁷ ザヒドはナジブ・ラザク元首相に近く、自身も汚職裁判を抱えていたため、2021 年にムヒッディンが首相を辞任して UMNO から首相を出すことになった際に、ザヒドではなく党内序列 3 位でクリーンなイメージがあるイスマイル・サブリが首相に就いた。UMNO 党内にはイスマイル・サブリ派とザヒド派の確執があると伝えられていた。

¹⁸ スランゴール州 Tanjong Karang 区では 1995 年以来 6 回当選していた現職の起業家・協力開発大臣が UMNO から公認されず、PPBM の候補が当選した。プルリス州 Padang Besar 区では現職の通信マルチメディア副大臣が UMNO から公認されなかったために無所属で立候補して落選し、PAS の候補者が当選した。

¹⁹ ヌグリスンビラン州 Rembau 区で過去 3 回当選していた現職の保健大臣が UMNO からス

から立候補して当選した議員もいた²⁰。

もう 1 つの理由として、今回の選挙では UMNO への批判票を投じたかったが、希望連盟に投票すると DAP を支持することになるのでそれは避けたいという思いが働き、消去法により PAS に投票したという可能性が考えられる。UMNO と DAP に投票したくないために消去法で選ばれたのであれば、PAS の躍進は一時的なものと考えられる。イスラム主義政党に対する国民の抵抗感が薄れてきたのであれば、PAS の躍進は長期的な変化かもしれない。

また、今回の総選挙から選挙権年齢が 21 歳以上から 18 歳以上に引き下げられたために若い有権者が増えた。選挙前には、若い世代は現状に批判的なので野党に投票するだろうという予測と、若い世代は現状に肯定的なので与党に投票するだろうという予測が両方聞かれた。今後、年齢層別の投票結果などの情報が出てきて分析が進むことが期待される。

なお、選挙の事前調査に関して、2018 年総選挙では選挙前の調査結果と開票結果が食い違っていたことが話題になった。2018 年総選挙では政府批判が厳しく取り締まられたナジブ政権下にあって与党連合に批判的なことを他人に言うことが躊躇されたために回答と投票が食い違ったという理由に加え、誰に投票すればよいか最後まで迷っていたという理由も挙げられた。2022 年総選挙でも、マレーシアの知人たちに話を聞くと、誰に投票すればよいか最後の最後まで迷い、投票所で投票用紙を目の前にしてもまだ迷っていたという人が複数いた²¹。選挙に関する調査ではその結果を解釈する力が問われることになるだろう。

PAS の躍進の背景としてもう 1 つ考えられるのは、連邦と州の使い分けの可能性である。2008 年総選挙以降、連邦と州の政府が違っても大きな問題にならないことを知ったため、州議会選挙では身近な生活に関わるイシューに対応してくれることが期待される政治家または政党を選び、連邦議会では国政に関わるイシューについて支持する政治家または政党を選ぶという連邦と州の使い分けが半島部でも語られるようになった。

2022 年総選挙に先立って、2021 年 11 月にマラッカ州、2022 年 3 月にジョホール州で州議会選挙が行われた。どちらも国民戦線が議席を伸ばしたことから、2022 年総選挙では国民

ランゴール州 Sungai Buloh 区での立候補を割り当てられ、落選した。

²⁰ ブルリス州 Arau 区で現職の連邦直轄区大臣が UMNO から公認されなかったために PAS から立候補して当選した。パハン州 Maran 区で現職の住居地方政府副大臣が UMNO から公認されなかったため PAS から立候補して当選した。

²¹ 候補者、所属政党、連立相手などさまざまな要素を考慮しなければならないために 1 人に決まらないという人がいるとともに、選挙区によって決めやすいところと決めにくいところがあるなどの感想も聞かれた。

戦線が勢力を伸ばすのではないかという予想も聞かれた。しかし 2022 年の総選挙では、国民戦線ではなく国民同盟と希望連盟、特に国民同盟の PAS が議席を大きく伸ばした。

連邦議会の選挙区は州議会の複数の選挙区から成る。連邦議会の選挙区とそれを構成する州議会の選挙区とは同じ政党連合の候補者が当選する傾向が見られるが、2022 年総選挙では、マラッカ州とジョホール州で、州議会議員の過半数を国民戦線議員が占める下院の選挙区で国民戦線の候補が落選している選挙区が複数あった²²。州政府では国民戦線に投票するが連邦政府では国民戦線以外を支持するという使い分けが働いたのだろうか。2023 年に 6 つの州で行われる予定の州議会選挙の行方をもとに考えることになるだろう²³。

3. サラワクとサバ——わかってもらえなくてよいから干渉されたくないサラワクと、わかってもらうためにあの手この手で干渉するサバ

(1) サラワクとサバの政治を捉えるための 3 つの視点

マレーシアでは、法律で明確に禁じられていることは行わないけれど、明確に禁じられていないことは行ってよいという考え方が強い。とりわけサバでは、政治家とは自分の選挙区の住民の利益を最大にするために法律で禁じられていない限りあらゆる可能性を追求する創造性に溢れた存在であり、そのため想定外の事態が生じることがしばしばある。それぞれの動きには自分を含む選挙区住民の利益を短期的に最大にするという意図があるが、それを丹念に追う努力を諦めると、サバの政治は原則がないというような言い方が出てくることになる。

そのようなサバ(およびサラワク)の政治を読み解く方法をすべて記すことはできないため、ここでは 2022 年総選挙のサラワクとサバに関わる選挙結果を捉える上で重要なことを 3 点確認しておく。

第一は、上でも述べたように、サラワクとサバの政治は半島部の政治と切り離して捉えるべき

²² たとえばマラッカ州では、5 つの州議会選挙区から成る連邦議会選挙区で、5 つの州議会選挙区がすべて国民戦線でありながら連邦議会選挙区では国民戦線以外が当選した選挙区が 2 つ(国民同盟 1、希望連盟 1)あり、4 つの州議会選挙区が国民戦線でありながら連邦議会選挙区は国民同盟が当選した選挙区が 1 つあった。ジョホール州では、2 つの州議会選挙区からなる連邦議会選挙区で、2 つの州議会選挙区がともに UMNO でありながら連邦議会選挙区では希望連盟が当選した選挙区が 3 つあった。ただし、2022 年に総選挙と州議会選挙が同時に行われた 3 つの州では州議会選挙区と連邦議会選挙区で議席を得た政党が大きく食い違うものはなかった。

²³ スランゴール州(2023 年 6 月)、クランタン州(2023 年 6 月)、トレンガヌ州(2023 年 7 月)、ヌグリスンビル州(2023 年 7 月)、クダ州(2023 年 7 月)、ペナン州(2023 年 8 月)。括弧内は任期満了の時期。州議会選挙は任期満了または解散の日から 60 日以内に行われる。

ということである。同じ政党でも半島部とサラワクとサバでは同じように動くとは限らない。たとえば UMNO サバ州支部(サバ UMNO)は、半島部の党執行部の指示を受ける立場にあるが、候補者の公認を含めて、党執行部の指示に従わず独自の決定をすることがある。そのような「造反」に関わったサバ UMNO 党員は除名などの処分を受けることもあるが、関わった人物の数が多かったりサバ州内で影響力が大きい人物だったりすると処分を受けず、党執行部がサバ UMNO の決定を追認することもある。

2022 年総選挙で PPBM のサバ州支部(サバ PPBM)は、PPBM は国民同盟の一員として国民戦線と対決するという党執行部の方針に同意せず、サバの地域政党とともにサバ連合を結成して、サバ連合として国民戦線と選挙協力を行った。このため、PPBM は半島部(およびサラワク)とサバで異なる方針のもと選挙に臨んだ²⁴。

第二は、サラワクとサバの間でも異なるということである。違いはいろいろ挙げられるが、最も主要なものを 1 つ挙げるならば、サラワクは主要な地域政党がサラワク連合として一まとまりになって行動するのに対し、サバは政党または議員が個別に行動するという違いがある。

サラワクには半島部に基盤を置く PKR、DAP、PPBM の支部があるが、サラワク連合はこれらの「外来」政党とサラワク州内では連携せず、連邦レベルでのみ連携するという立場を貫いている。半島部に基盤を置く政党連合のどれと連携するかをサラワク連合として決めるため、連携相手を変えるときは決定まで時間がかかるが、組み換えが決まると 20 前後の議席が一斉に陣営を変えるために影響が大きい。

これに対してサバでは、UMNO のサバ州支部は地域政党と国民戦線を構成し、PKR と DAP のサバ州支部は地域政党と希望連盟を構成している。PPBM のサバ州支部は、一部が地域政党とともに国民同盟を構成し、他の一部は別の地域政党とともにサバ連合を構成している。いずれの政党(政党支部)も自律的に行動して連携相手を選ぶため、ある政党が政党連合を離脱して別の政党連合に加わることは珍しくなく、連携相手の組み換えで党内の意見がまとまらずに政党が割れることもある。

第三は、サラワク・サバと半島部の間の意識のすれ違いである。半島部の人々から見れば、サラワクとサバでは地元政治家が利権をあさる構造が問題であり、そのため両州の開発が進ま

²⁴ 話がさらに複雑になるが、PPBM の中央の副総裁補でサバ州 Beluran 区の現職議員は、サバ連合と国民戦線の協議によって同選挙区が国民戦線に割り当てられたため、PPBM の党執行部に従って国民戦線と対決すると主張し、同選挙区から PPBM の公認候補として立候補した。このためサバでは PPBM 党員が 2 つのグループに分かれて選挙に臨んだ。選挙ではこの副総裁補が当選した。

ないだけでなく、国全体の改革の足も引っ張ってきたと見える。地元政治家が利権をあさる構造については、それが全く存在しないわけではないことは半島部と状況は同じだが、半島部の新聞やテレビでサラワクとサバが報じられるときには地元政治家の汚職ばかり報じられてきたという背景がある²⁵。また、サラワクとサバは長く半島部の国民戦線と連携してきたことから、半島部の希望連盟支持者から見ると、いくら半島部で希望連盟が議席を伸ばしてもサラワクとサバが国民戦線に投票するために国民戦線政権が維持されてしまい、希望連盟が掲げてきた国政の改革が進まないという不満に結びついてきた。

これに対してサラワクとサバの人々から見ると、半島部はサラワクとサバの地位向上や生活水準の向上に手を貸してこなかった上に、サラワクとサバの地元の事情を理解せずに、自分たちがよいと考える改革を押し付けてきたと映る²⁶。

(2)半島部の政党連合がサラワクとサバにどう臨んだか

2022年総選挙では、希望連盟、国民戦線、国民同盟はサラワクとサバに対してそれぞれ異なる臨み方をした。表 3 をもとに、半島部に拠点を置く 3 つの政党連合がサラワクとサバでどのように候補者を立てたかを見てみよう。

希望連盟は、サラワクの 31 選挙区のうち 30 選挙区、サバの 26 選挙区のうち 25 選挙区で候補を立てた。サバに拠点がある UPKO の 5 選挙区を除けば、すべて半島部に拠点を置く政党がサラワクとサバに進出して候補者を立てた。

国民戦線は、サバではサバ連合と協力関係を結び、14 選挙区に国民戦線の候補を立てた。サラワクでは候補を立てなかった。

国民同盟は、サラワクで 4 選挙区、サバで 2 選挙区で候補を立てた。サバ PPBM は他の地域政党とともにサバ連合を組織して国民戦線と選挙協力を行った。

これを図で示したのが図 1 である。各行は選挙区を示し、222 の選挙区が州別に縦に並べられている。横軸には政党と政党連合が並べられており、その選挙区で候補者がいる政党・政

²⁵ 半島部出身者は大学教員の間でもサラワクとサバに対する上記の印象がかなり浸透しており、講義等を通じてこの印象が再生産されている。

²⁶ 希望連盟政権時の 2019 年 6 月、財務大臣だった DAP 書記長のリム・グアンエンは、当時野党州だったサラワク州政府を担っていたサラワク連合は行政能力が低いと批判し、このままサラワク連合の統治が続くとサラワク経済は 3 年で破綻すると語り、「クランタン州と同じ目に遭いたくなければ」2021 年中に実施が予定されていたサラワク州議会選挙で希望連盟に投票するようにサラワクの有権者に呼びかけた。

党連合のセルを着色して示している²⁷。国民戦線と国民同盟がサラワクとサバの地域政党との対決を最小限に抑えたのに対し、希望連盟はほぼすべての選挙区で地域政党と直接対決に臨んだ。

表3 2022年総選挙の地域別の立候補者数と当選者数

[山本博之 2023]

			解散時の議席数				立候補者数（括弧内は当選者数）			
	政党	地域基盤	半島部	サラワク	サバ	合計	半島部	サラワク	サバ	合計
希望連盟(PH)										
	DAP	半島部	33	6	3	42	40(33)	8(5)	7(2)	55(40)
	PKR	半島部	33	1	2	36	74(29)	16(1)	10(1)	100(31)
	Amanah	半島部	11	-	-	11	46(8)	6(0)	2(0)	54(8)
	UPKO	サバ	-	-	1	1	-	-	5(2)	5(2)
	MUDA	半島部	1	-	-	1	5(1)	-	1(0)	6(1)
	計		78	7	6	91	165(71)	30(6)	25(5)	220(82)
国民戦線(BN)										
	UMNO	半島部	35	-	2	37	105(20)	-	12(6)	117(26)
	MCA	半島部	2	-	-	2	44(2)	-	-	44(2)
	MIC	半島部	1	-	-	1	10(1)	-	-	10(1)
	PBRs	サバ	-	-	1	1	-	-	2(1)	2(1)
	その他	半島部	-	-	-	0	6(0)	-	-	6(0)
	計		38	0	3	41	165(23)	0	14(7)	179(30)
国民同盟(PN)										
	PAS	半島部	17	-	-	17	62(43)	1(0)	-	63(43)
	PPBM	半島部	21	1	-	22	82(28)	3(1)	2(2)	87(31)
	Gerakan	半島部	-	-	-	0	20(0)	-	-	20(0)
	計		38	1	0	39	164(71)	4(1)	2(2)	(170)74
サラワク政党連合(GPS)										
	PBB	サラワク	-	14	-	14	-	14(14)	-	14(14)
	SUPP	サラワク	-	1	-	1	-	7(2)	-	7(2)
	PDP	サラワク	-	2	-	2	-	4(2)	-	2(2)
	PRS	サラワク	-	2	-	2	-	6(5)	-	6(5)
	計		0	19	0	19	0	31(23)	0	31(23)
サバ人民連合(GRS)										
	PPBM	サバ	-	-	6	6	-	-	6(4)	6(4)
	PBS	サバ	-	-	1	1	-	-	4(1)	4(1)
	STAR	サバ	-	-	1	1	-	-	2(1)	2(1)
	SAPP	サバ	-	-	-	0	-	-	1(0)	1(0)
	計		0	0	8	8	0	0	13(6)	13(6)
その他の政党・無所属										
	Warisan	サバ	-	-	7	7	26(0)	-	26(3)	52(3)
	PBM	サラワク	4	1	1	6	3(0)	1(1)	1(0)	5(1)
	KDM	サバ	-	-	-	0	-	-	7(1)	7(1)
	GTA	半島部	4	-	-	4	111(0)	-	16(0)	127(0)
	SUPA	サラワク	-	1	-	1	-	15(0)	-	15(0)
	他の諸政党		-	-	-	0	17(0)	-	1(0)	18(0)
	無所属		1	2	-	3	66(0)	11(0)	20(2)	97(2)
	計		9	4	8	21	223(0)	27(1)	71(6)	321(7)
合計			163	31	25	219	(165)	(31)	(26)	(222)

出典：報道情報等をもとに著者作成。

²⁷ たとえば半島部のクアラルンプール (図中では KUL と略記) の Batu 区では無所属 4 人を含む 10 人の戦いとなった。

図1 2022年総選挙の選挙区ごとの立候補者の所属政党

[山本博之 2023]

州	PH	BN	PN	GRS	GPS	WARISAN	PBM	KDM	GTA	SUPA	その他	無所属	無所属	無所属	無所属
PLS															
KDH															
KTN															
TRG															
PNG															
PRK															
半島部															
PHG															
SGR															
KUL															
PJY															
NSN															
MLK															
JHR															
サバ															
SBH															
LBN															
サラワク															
SWK															

出典：報道資料等をもとに著者作成

各行は選挙区。その選挙区に立候補者がいる政党・政党連合のセルを着色して示した。

選挙区の順序は州内で入れ替えた。

希望連盟がサラワクとサバで「外来」政党と見られており、せいぜい都市部のいくつかの選挙区でしか議席獲得が望めないであろうことを受け止めて現実的に対応するのであれば、サラワクとサバでは自前の候補を立てずに地域政党と選挙協力する手もあっただろう。それにもかかわらず希望連盟がサラワクとサバのほぼ全ての選挙区で独自候補を立てた背景には、サラワクとサバの地元政治家に対する不信感が見え隠れする。希望連盟が地域政党を支援した場合、当選すると希望連盟陣営の議席増をもたらすが、その後いつ別の陣営に寝返るかという疑いが抜けないためである。

そのことはまた、サラワクとサバの地域政党に任せていては政治改革のための自浄作用が期待できないと希望連盟が考えていることもうかがわせる。希望連盟の真意はともかく、サラワクとサバは希望連盟の公認の様子からそのようなメッセージを受け止め、そのことが今後のサラワクとサバの希望連盟への態度にも影響を与えることになる。

なお、図1のうち当選者のセルを残して他のセルの色を薄くしたのが図2である。サラワクではサラワク連合がまとまった数の議席を得ていること、サバでは希望連盟、国民戦線、サバ連合、国民同盟、伝統党と5つの政党連合・政党に議席が分散している。

図2 2022年総選挙の選挙区ごとの立候補者の所属政党および当選政党

[山本博之 2023]

州	PH	BN	PN	GRS	GPS	WARISAN	PBM	KDM	GTA	SUPA	その他	無所属	無所属	無所属	無所属
PLS															
KDH															
KTN															
TRG															
PNG															
PRK															
半島部															
PHG															
SGR															
KUL															
PJY															
NSN															
MLK															
JHR															
サバ															
SBH															
LBN															
サラワク															
SWK															

出典：報道資料等をもとに著者作成

各行は選挙区。その選挙区に立候補者がいる政党・政党連合のセルを着色して示した。

選挙区の順序は州内で入れ替えた。選挙区の並びが図1と異なる箇所がある。

4. 首相指名をめぐる混乱と国王による裁定

2022 年総選挙の開票結果を受けて行われた首相指名をめぐる混乱についても見ておきたい。2022 年 11 月 19 日深夜、希望連盟が 82 議席、国民同盟が 73 議席、国民戦線が 30 議席、GPS(サラワク連合)が 22 議席、GRS(サバ連合)が 6 議席、その他・無所属が 7 議席という選挙結果が判明した²⁸。単独で過半数を占める政党連合がなかったことから、政党連合どうしが連立して多数派を構成する必要があった。希望連盟の支持者たちは最大多数派になった希望連盟を中心に新政権が組織されるべきだと主張したが、そのためには少なくとも 30 議席の支持を他政党から取り付けなければならなかった。

選挙後の数日間、各陣営が連立についてそれぞれの思惑を表明し、どれとどれを合わせると過半数の 112 に達するかという連立案が日替わりで提案され、政権のゆくえに注目が集まっ

²⁸ サラワク州 Baram 区では洪水のため投開票が 11 月 21 日に延期され、サラワク連合が当選した。クダ州 Padang Serai 区では選挙期間中に候補者の 1 人が死亡したため投開票が 12 月 7 日に延期され、国民同盟が当選した。

た。これらの提案は、単なる数合わせという面もあるが、連立案から排除されている政党を見ることでそれぞれの提案の意図を伺うことができる。

11 月 20 日には、国民同盟と国民戦線が組む案が出された。解散前の連邦与党だった国民同盟と国民戦線が再び組むというこの案の意図は、希望連盟の排除であり、より具体的に言えば華人主体の DAP の排除である。国民同盟と国民戦線だけでは数が足りないが、サラワク連合とサバ連合を加えれば 131 議席になるという主張からは、DAP 外しという半島部の事情に基づいた目的のためにサラワクとサバを手駒のように使う意識が漏れ出ているように感じられる。

11 月 21 日には、希望連盟と国民戦線が連立すれば 112 議席で過半数になるという案が出た。国民戦線の金権政治を批判してきた希望連盟が、選挙で国民戦線に勝ったという喜びも束の間、政権獲得のために国民戦線と手を組み、それによって国民戦線を生き延びさせるという案であり、主義の一貫性がないという批判が出た。それに加えて気になるのは、これは希望連盟と国民戦線が組めば半島部の政党連合だけで過半数を押さえることができるという案であり、複雑な事情を抱えていると文句を言ってくるがいつ相手陣営に寝返るかわからないサラワクとサバははじめから数に入れないというサラワクとサバに対する不信感が漏れ出ているように感じられる。

政党連合間の交渉では結論が得られないという状況を受けて、11 月 22 日に国王が希望連盟と国民同盟による連立を提案した。実質的に華人を代表する DAP と、単独で最大政党となったイスラム主義政党の PAS を取り入れることで、民族と宗教を包括した政権を作るようにという意図を示し、また、地域の代表も入れるようにと注文を付けることでサラワクとサバを代表する政党も政権に加えるよう求めた。国王は 11 月 23 日に国民戦線とサラワク連合の意向を確認した。サラワク連合は希望連盟政権下で DAP 書記長がサラワクを見下した態度をとったこと（注 26 を参照）に対する不快感を表明したが、DAP が謝罪したことで一応の和解を見た。

これを受けて、11 月 24 日、国王が主宰する「州王談話会」を経て、希望連盟、国民戦線、サラワク連合、サバ連合による連立政権が誕生し²⁹、アヌアル・イブラヒムが首相に就任した。国民同盟は連立に参加しなかった。

11 月 24 日に国王が各州の統治者を招いて開いた会議は一般に「統治者会議」と呼ばれている。マレーシアには各州の統治者から成る統治者会議があり、国王選出などの役割を果た

²⁹ ほかに Warisan、KDM、PBM と無所属 1 人が加わった。

している。国民の代表を決めるのに国民(およびその代表である政党)の間で決められなかったからといって、国王に判断を委ねるのは国民主権の考え方に照らしていかなものかという批判は当然ありうるが³⁰、ここではそれはおく。

ここで気になるのは、この会議が連邦憲法第 38 条で定められている統治者会議の要件を満たしていないことである。統治者会議とは、世襲のマレー王家がある 9 州の州王と、世襲のマレー王家がない 4 州(マラッカ、ペナン、サラワク、サバ)の州元首を構成員とするが、今回の会議にはマラッカ、ペナン、サラワク、サバの州元首は招かれていない。(クランタンの州王は招かれたが都合が合わずに欠席した。)国王が国全体のことを決めるにあたり、国内の全ての州の代表に相談するのではなく、マレー王家の代表だけに相談して決めたことは、マレーシアとマレー人(あるいはマレーシアとマレー王家)の関係にどのような影響を与えるだろうか。

5. 改革のゆくえ——「民族の政治」が解消した先に希望はあるのか

最後に、1998 年にレフォルマシ(改革)を掲げ、20 年以上の時を経て首相の座に就いたアヌアル・イブラヒムによる改革のゆくえについて考えてみたい。

1 つ目は政権の安定度である。国王の介入に支えられてアヌアルのもとでかろうじてまとまった新政権の内実は、互いに不信感を抱いて反発しあう勢力の危ういバランスの上に成り立っている。華人中心の DAP が政権に加わることでマレー人の権利が奪われるのではないかという DAP に対する警戒感。希望連盟が強く批判してきた汚職批判の対象である UMNO との協力関係。サラワクとサバは自分たちの利権を優先して国全体の改革の足を引っ張るのではないかという不信感。対立の火種は数多くあり、しかもどれも根深い。そして在野には、これらの不満を抱えた勢力の受け皿として PPBM が待ち構えている。その脇には、政権に入ったら急進的なイスラム化政策を進めるのではないかと警戒感を抱かれている PAS が控えている。

2 つ目はレフォルマシが向かう先である。国民戦線は国民を民族ごとに区分し、民族政党の連立によって全体の調整をはかるという立場をとり、華人・インド人に対してブミプトラ(マレー

³⁰ 2018 年総選挙以来、コロナ禍のために国会を開催できないという背景もあって、政党の指導者が国会で過半数の支持を得たとして自分を首相に任命するように国王に求める動きが何度か見られた。コロナ禍のために国会を開催して信任を確認できないという事情もあったとはいえ、主権者である国民の代表を選ぶ権限を国王に委ねることは、1980 年代と 1990 年代に当時のマハティール首相が国王と州王の特権を制限する憲法改正を試みた動きに逆行する。なお、国政における国王(および州政治における州王)の介入を求める動きは、2009～2010 年にペラ州で州首相の信任を巡って州議会で結論が出せずに州王の裁定を仰いだことにはじまった。

人と先住諸族)の特権を認める政策を進めてきた。これに対して希望連盟は民族別の政治を批判しており、しかも華人とインド人から多くの支持を得ていることから、希望連盟の政策は究極的にはブミプトラの特権の廃止に向かうと考えられる。ただし、「ブミプトラの特権の廃止」といったとたんにマレー人およびサラワクとサバの支持の多くの部分を失うと考えられるため、同じ内容ではあるが、「ブミプトラの特権の廃止」ではなく「ブミプトラの特権のマレーシア国民への開放」のような形をとることになるだろう。

そうなった場合、(それを依然として「ブミプトラ」と呼ぶかどうかはともかく)そのような特権を享受する「マレーシア国民」にはどのような条件が付けられるだろうか。「マレー語を十分に理解して話す能力があること」という条件を付けたとしても、マレーから人も非マレーから人も大きな反発はないだろう。それでは、さらに「イスラム教を信仰すること」という条件を付けた場合、華人やインド人(あるいは DAP)はそれを受け入れるだろうか。

信仰は内面の問題なので政府や他人がどのように信仰の有無を判断するのかといった問題はここでは問わない。一般にマレーシア華人の多くはイスラム教と距離を置きたがる傾向があるため、イスラム教の信仰を条件とされることを嫌うのではないかという印象を持つかもしれないが、ブミプトラと等しいマレーシア国民としての権利が享受できるのであれば、華人やインド人の中にもその条件付けを支持する人が多く出るかもしれない。

今の時点でそのような仮定の話を考えるのは荒唐無稽に感じられるかもしれないが、アヌアルは 1990 年代にマハティール政権下で副首相兼財務相だったときに「マダニ社会」(masyarakat Madani、イスラム的市民社会)という概念を打ち出した。当時、マレーシアの官公庁はこぞってセミナーや研究会を開いて「マダニ社会とは何か、どのように実現できるのか」を議論し、「イスラム的市民社会」のあるべき姿について考えを巡らせた。そのことを思い起こすならば、首相になったアヌアルが再び「マダニ社会」概念を持ち出し、「イスラム的市民社会」を発展させることによって「民族の政治」を終わらせようとすると考えても全くの夢想であるとは言えないだろう。

全ての国民がイスラム教の信仰を受け入れることで民族や地域の違いのために扱いが変わることのない市民社会をつくる方向に舵取りがされたとき、華人やインド人はそれを受け入れるのか。その道行きは華人やインド人にとって、そしてマレー人や先住諸族にとって好ましいものになりうるのか。国民を民族ごとに箱の中に入れることで全体のまとまりを維持しようとする「民族の政治」というパンドラの箱を開けた後に出てきた希望連盟は、誰にどのような希望をもたらすのだろうか。

追記

(1)サバ州政府の連立の組み換えの試み。サバ州では、2020 年州議会選挙で国民同盟が 24 議席 (PPBM(11)、STAR(6)、PBS(7))、国民戦線が 14 議席 (UMNO(14))、希望連盟が 9 議席 (DAP(6)、PKR(2)、UMKO(1)、Warisan が 23 議席となった。連邦政府で国民戦線と国民同盟が連立していたことを受けて、サバ州でも国民同盟と国民戦線による州政府が組織され、PPBM のハジジ・ノールが州首相に就任した。2022 年総選挙により希望連盟と国民戦線による連邦政府が成立したことで、サバでは州政府と連邦政府のねじれ現象が生じた。UMNO のブン・モフタル前州首相は国民同盟への支持を取り下げ、国民戦線と Warisan の連立で州議会の過半数の信任を得たと訴えたが、UMNO の州議会議員 5 人がハジジ支持を表明し、ハジジ州首相のもとで国民同盟と国民戦線による州政府が維持された。

(2)2023 年 1 月 19 日、アヌアル・イブラヒムが政権のスローガンとして「マレーシア・マダニ」を打ち出した。

(3)UMNO 党員の除名処分および党籍停止処分。3 年ごとに行われる UMNO の党役員選挙は 2021 年 6 月までに実施が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の流行のために延期されて 2023 年 5 月までに行われることになった。2023 年 1 月 14 日の UMNO 党大会で、次期党役員選挙では正副総裁の選挙を行わず、ザヒド総裁ら現執行部が続投することが決議された。2023 年 1 月 27 日、UMNO 最高評議会は党規律に反したためとして前保健相 (注 18 を参照)ら 42 人を除名し、イスマイル・サブリ政権時代の上級相兼国防相ら 4 人を 6 年間の党籍停止処分とした。